

第19回

伊予銀行決算説明会 & 特別講演会

<瓶ヶ森>

「日本三百名山」のひとつに数えられ、家族連れにも人気の登山スポット
となっています
遠景には西日本最高峰の石鎚山がそびえたち、一面に広がるなだらかな
笹の平原や白骨林は、「四国のパノラマ台」と呼ぶにふさわしい自然美で
あり、多くの登山客を魅了します



伊予銀行

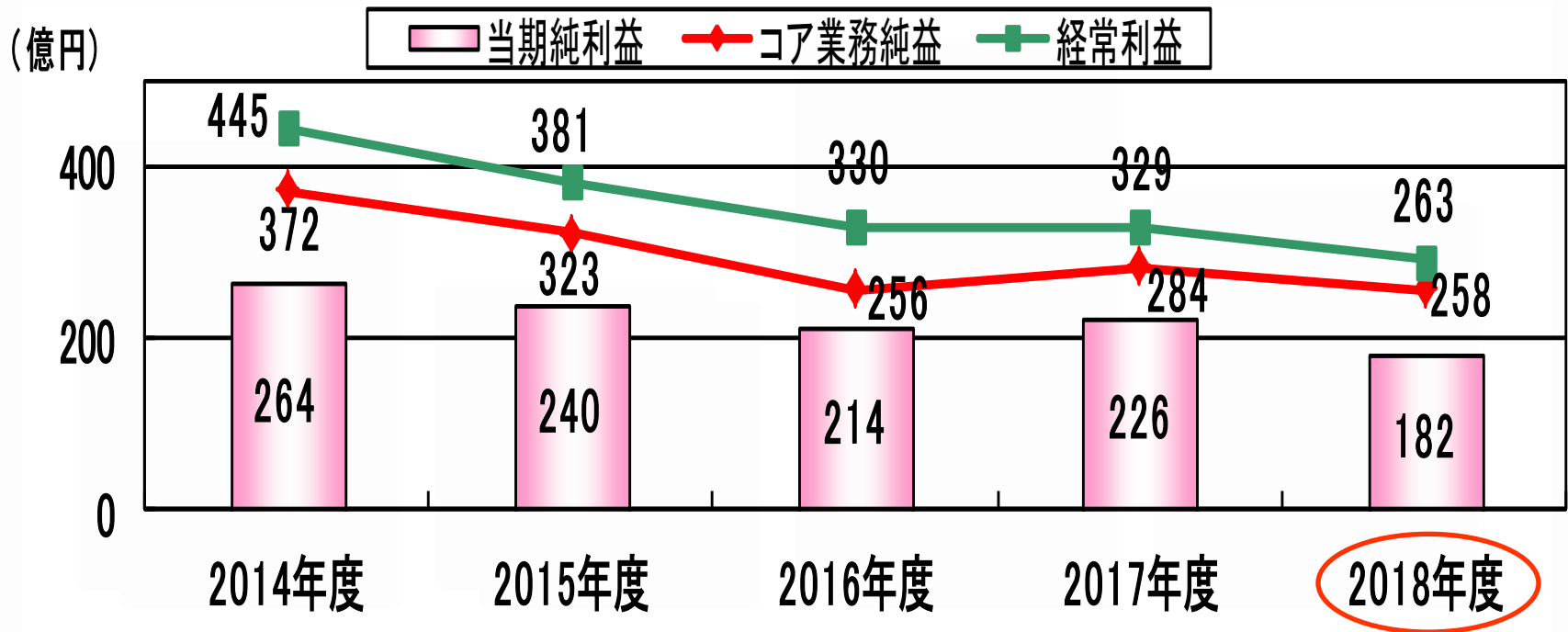


伊予銀行

2018年度決算の状況

● コア業務純益・当期純利益は、業績予想を上回って着地しており、一定水準の利益を確保しております。

<コア業務純益・経常利益・当期純利益の推移>



「コア業務純益」とは？

一般企業の『営業利益』に相当する指標であり、銀行の基礎的な収益力を示します。

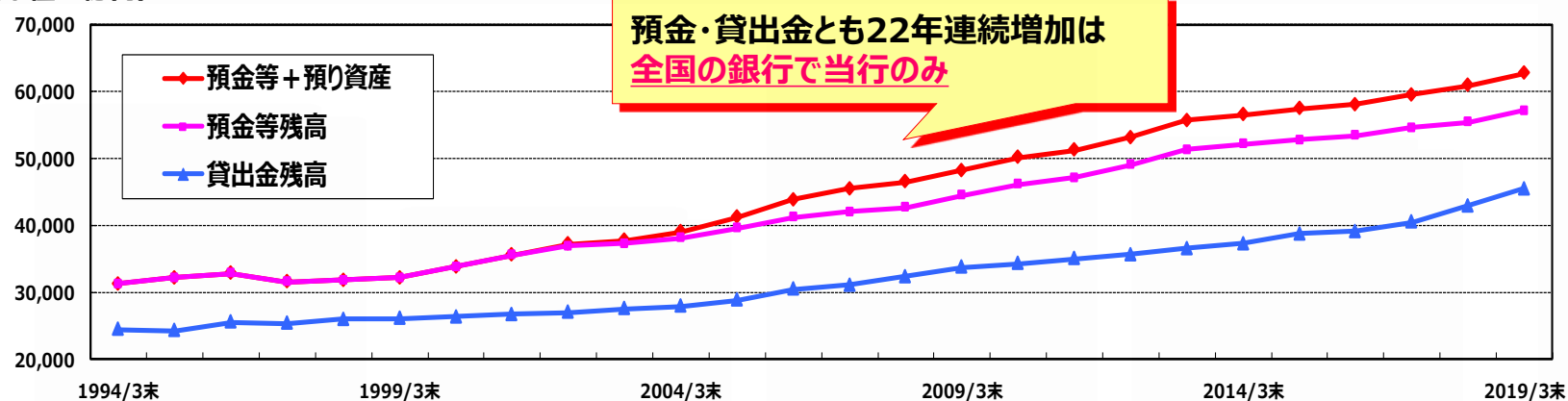
預金等・貸出金・預り資産残高の状況

● 当行では預金・貸出金ともに**22年連続で残高が増加しております。**

(単位：億円)

	2017/3末	2018/3末	2019/3末	前年度比
預金等	54,570	55,460	57,126	+1,666
個人預金残高	33,546	33,921	34,236	+315
グループ預り資産残高	4,958	5,444	5,574	+130
当行本体残高	3,320	3,430	3,579	+149
四国アライアンス証券残高	1,637	2,014	1,995	△19
預金等+グループ預り資産残高	59,527	60,904	62,700	+1,796
貸出金	40,433	42,926	45,508	+2,582
個人融資残高	9,949	10,240	10,724	+484

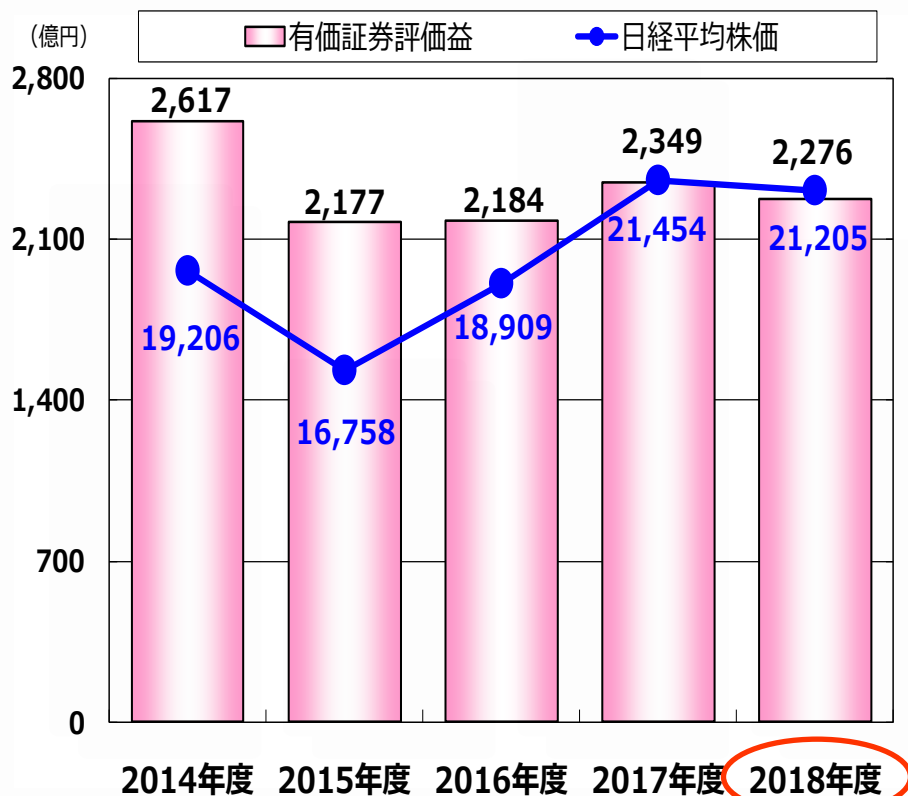
(単位：億円)



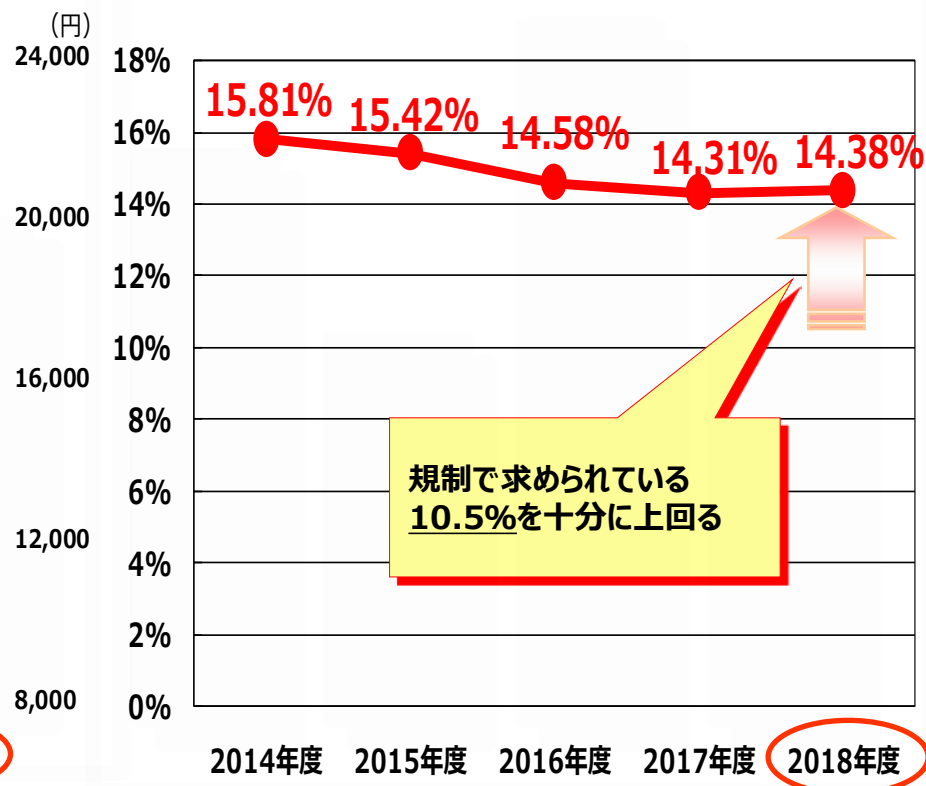
有価証券評価益と自己資本比率の状況

- 「有価証券評価益」は2,276億円と地銀トップクラスを維持しております。
- 「連結総自己資本比率」も 14.38%と高水準で、健全性は十分です。

＜有価証券評価益（単体）の推移＞



＜連結総自己資本比率の推移＞



2019年度の損益予想

● 2019年度の「コア業務純益」は**230億円**、「当期純利益」は**175億円**を見込んでおります。

<2019年度業績予想>

(単位：億円)

	2018年度実績		2019年度予想			
	中間期実績		中間期予想	前年同期比		前年度比
コア業務粗利益	388	761	370	△ 18	745	△ 16
うち資金利益	342	664	319	△ 23	645	△ 19
うち役務等利益	36	70	37	+ 1	75	+ 4
経費 (△)	251	503	260	+ 9	515	+ 11
コア業務純益	137	258	110	△ 27	230	△ 28
信用コスト (△)	8	58	28	+ 20	55	△ 3
経常利益	165	263	125	△ 40	250	△ 13
当期(中間)純利益	114	182	90	△ 25	175	△ 7



伊予銀行

2018年度中期経営計画の 主な戦略と進捗状況

~ Second Stage for 150 ~

(2018/4/1~2021/3/31)

「Digital-Human-Digital Bank」の進捗状況

Digital touch point - Human consulting - Digital operation

お客さま接点（タッチポイント）

- '18年 7月 API連携
- '18年 12月 保険ロボアドバイザー
- '18年 12月 チャットボットサービス
- '19年 3月 J-Coin Pay
- '19年 5月 HP全面リニューアル

デジタルを活用したお客さまとのリレーション

- '18年 7月 営業支援AIシステム

お客さまのお悩み相談

- '18年 8月 「コンサルティング営業部」新設
- '18年 10月 「保険プラザ」を2か店新設
- '18年 12月 「ハイブリッド型デスク」の試行

- '18年4月 「お客さま本位」の営業を徹底
 - ◆ 各営業店が独自の経営方針・目標等を掲げ、自主性を尊重した店舗運営を構築することで、お客さま1人ひとりにあわせた価値をご提供

デジタル
タッチポイント

デジタル
オペレーション

ヒューマン&デジタルで
お客さまごとに寄り添う

ヒューマン
コンサルティング

時間・場所を問わないチャネル

- '18年 4月 「次世代型店舗」の全店展開
- '18年 6月 THEO+伊予銀行
- '19年 1月 住宅ローンデジタル新サービス「HOME」の試行
- '19年 2月 AGENTシステム
- '19年 4月 AGENT for Business

コンサルティング

- '18年 4月 ICTコンサルティング業務
- '18年 5月 震災対応型融資
- '18年 10月 リース媒介業務

中期経営計画の主要数値目標

- 引き続き厳しい経営環境が想定されるものの、各施策の実施により、当期純利益は205億円を計画しております。

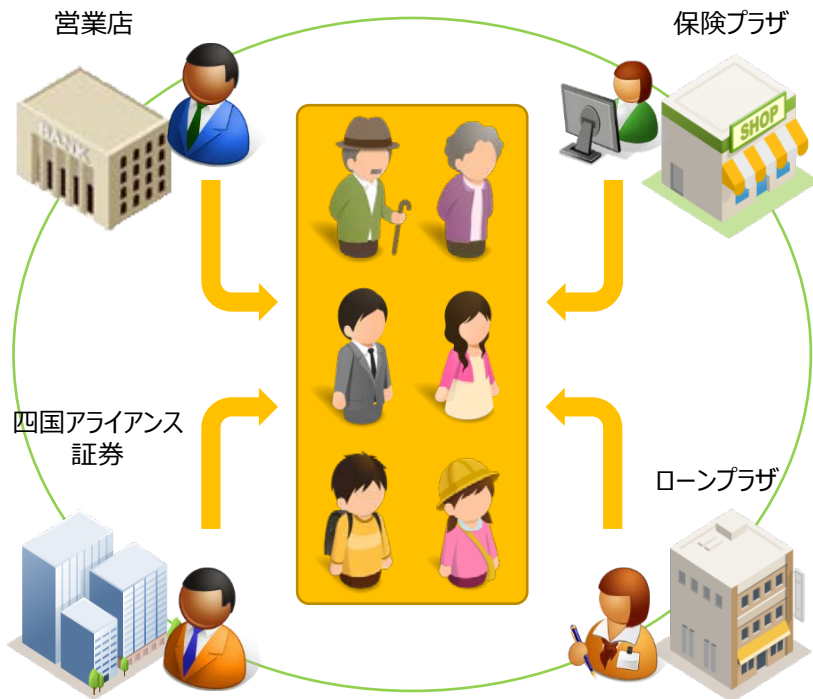
目標項目	2018年度		2020年度 目標
	目標	実績	
コア業務粗利益	750億円	761億円	765億円
役務取引等利益	70億円	70億円	85億円
当期純利益	180億円	182億円	205億円
ROE	3.0%以上	2.99%	3.0%以上
コアOHR	70.0%以下	66.10%	65.0%以下
連結総自己資本比率	15.0%以上	14.38%	15.0%以上
不良債権比率	2.0%以下	1.48%	2.0%以下

お客さま1人ひとりに寄り添った総合提案力の強化

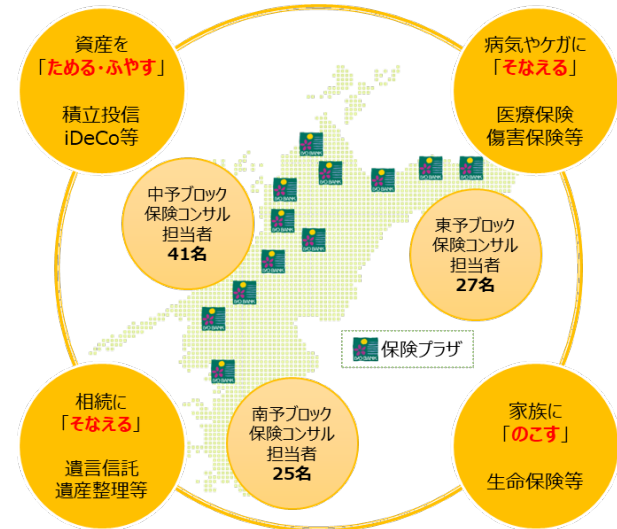
● 専門性の高いコンサルティングにより、**お客さまの豊かな未来の実現をサポートいたします。**

ライフイベントに応じた総合金融サービス

- 世代間を金融の力でつなぎ、**世帯取引と生涯取引の実現**
- 専門性の高い総合金融サービスを「**いよぎんグループ**」全体でご提供



- お客さまの多様なニーズにお応えするため、愛媛県内に「**保険プラザ**」を12拠点配置



- 「保険プラザ」と同様のコンサルティングをご提供できる「**保険コンサル担当者**」を93名配置



＼ 保険の見比べ、見直しも ＼

いよぎんで、保険。

ぎんほ

ご相談ご予約受付中



● お客様の経営課題を共有し、**より付加価値の高いコンサルティングのご提供**に努めてまいります。

ICTコンサルティング

- お客様の業務効率化・営業力強化に向けた**ICTの活用アドバイスや導入支援**
- 本部専門チームが**お客様のビジネスステージに応じたサポートを実施**

現状分析 課題抽出 → 計画策定 導入サポート → 運用サポート → アフターフォロー

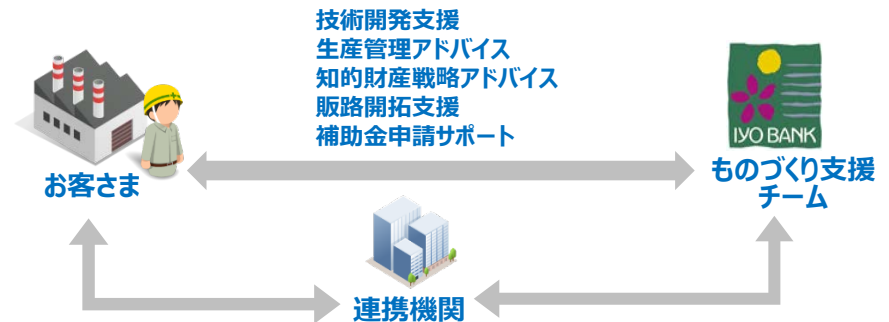


- 定期的なセミナーや相談会の開催
- **地域のITリテラシー向上**に向けた取組みを推進



ものづくり支援チーム

- 大手メーカー等に勤務し、**豊富な知識・経験を持つ専門チーム**によるサポート
- 「ものづくり企業」における**技術開発支援・新事業の創出等、地域の産業振興をお手伝い**



M&Aによる事業承継

- 瀬戸内圏域を中心とした広域ネットワークを活用し、**M&Aによるお客様の事業承継をサポート**
- シナジー効果を発揮できる**最適なお取引先をご紹介します**



● **ダイレクトチャネルの活用により、お客さまの利便性向上に向けた取組みを進めてまいります。**

住宅ローンデジタル新サービス「HOME」

- Webシミュレーションによる **簡単・スピーディーなお借入診断やスマートフォンでのお申込み等が可能**
- 段階的に取扱店を拡大し、サービス機能向上を志向



個人のお客さま向けサービス

- DMで保険契約内容や保障範囲をご案内（2019年7月実施予定）
- **お客さまのニーズに応じた多様な相談チャネル**

保険ロボアドバイザー

保険プラザ

保険コールセンター



契約後も信頼されるパートナーとして最適なサービスをご提供

法人のお客さま向けサービス

- **「AGENT for Business」の導入**

- 「入出金伝票」等の**Web作成**や伝票の**QRコード化**
- **スムーズな窓口手続きが実現**



● **チャネル・API連携・決済サービス**における取組みを通じて、**お客さまとの最適なコミュニケーションの拡大**を目指してまいります。

Webチャネルの刷新

- **チャットボットサービス**のご提供
- **チャット形式のQ&A**
- **24時間どこでもつながる**コミュニケーションツール

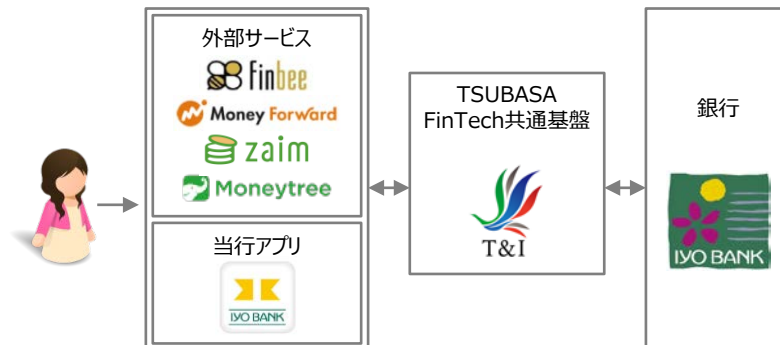


- **Webサイト**の全面リニューアル
- 操作しやすいレイアウトにデザインを一新
- **「目的の情報」**を探しやすいメニュー・検索機能配置



API連携サービスの拡充

- **「資産管理・家計管理サービス」**等の拡充により、**お客さまの資産形成・資産管理をサポート**



キャッシュレス決済サービスとの連携強化

- **「キャッシュレス決済サービス」**との連携により、**さらなる利便性の向上と新たなサービスの創出**を志向



- 「事務中心の場」から「**お客様の課題を解決する場**」への転換を進めてまいります。
- デジタル化を加速させ、「**日本一手続きが簡単な銀行**」を目指してまいります。

「D-H-D Bank」の実現に向けた店舗機能の見直しと事務の効率化

- 「次世代型店舗」では、10年先も必要とされるため、「事務中心の場」から『**お客様の課題を解決する場**』へ転換

次世代型店舗イメージ図



「**受電集中**」導入 (2017年2月～)



- **お客様をお待たせしない受電態勢**
- 電話対応の品質向上
- **県内全店**導入完了

「**さっと窓口**」導入 (2018年2月～)



- **セミセルフでの現金取引・税金納付**
- **簡単・スピーディーなお手続きが実現**
- **50店舗**導入済 (2019年6月末時点)

「**AGENT**」システム導入 (2019年2月～)



- **口座開設を含む26業務のお手続きが可能**
- 「**記入レス**」・「**印鑑取引レス**」の実現
- **42店舗**導入済 (2019年6月末時点)

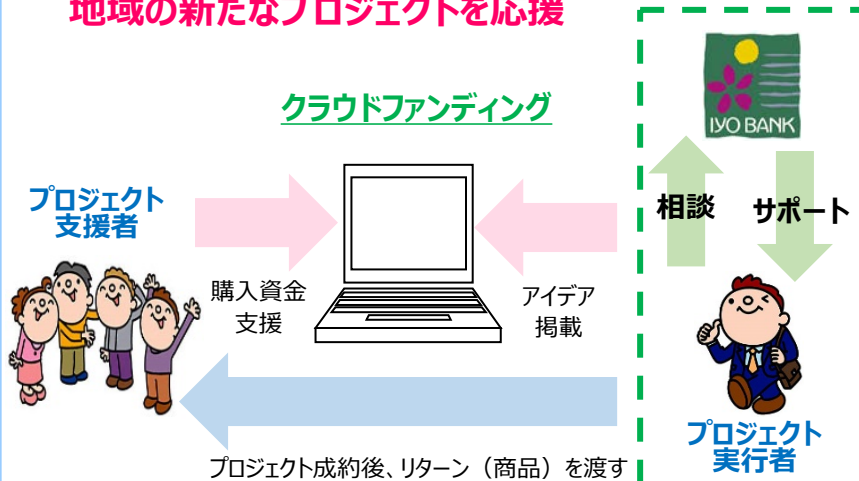
「事業」と「雇用」の創出による地域経済の活性化

● **新たなサービスの活用や官民連携により、地域経済活性化のサポートを行ってまいります。**

クラウドファンディング事業

140周年記念事業

- 成約手数料の1/2相当額を当行が補助するなど、**地域の新たなプロジェクトを応援**



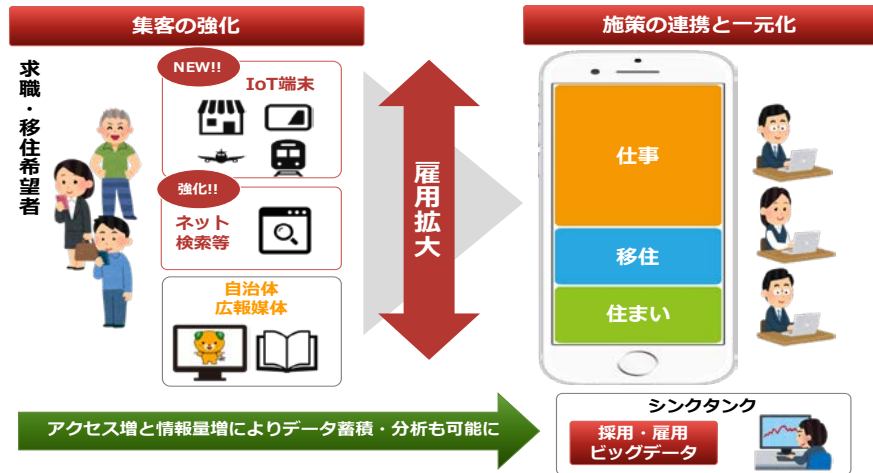
プロジェクト実績

- **23件のプロジェクトを組成、うち20件が目標達成 (2019.5.31現在)**
- プロジェクトを通じた**西日本豪雨災害の復旧・復興のお手伝い**

あのこの愛媛

- **愛媛の求人・移住総合情報サイト「あのこの愛媛」を通じ、地域の雇用創出・移住促進に貢献**

官民連携とIoTで雇用促進



内閣府の『地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」』に認定

- IoTと最新Web技術を活用し、地域の最新情報を発信

1年間で3,000件を超える雇用マッチングが成立

● 企業理念である「潤いと活力ある地域の明日を創る」の実現に向け、ESG・SDGsへの取組みを進めてまいります。

社会 Social



● 公益財団法人伊予銀行社会福祉基金（1976年設立）

奨学金の無償給付、福祉機器を贈呈



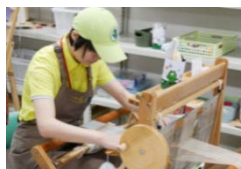
● 伊予銀行地域文化活動助成制度（1992年設立）

文化活動を継続されている方に助成



● いよぎん金融教育教室（2007年開始）

お子さまの金融リテラシー向上に向けたお手伝い



● 株式会社いよぎんChallenge&Smile（2018年設立）

障がいのある方の社会参画や自立に向けたお手伝い

● テニス部（1989年創部）・

女子ソフトボール部（1989年創部）

地域のスポーツ振興を応援



環境 Environment



● 公益信託伊予銀行環境基金「エバーグリーン」（2008年設立）

環境保全活動に取り組まれている方に助成

● 伊予銀行エバーグリーンの森（2008年開始）

愛媛県4カ所で森林を育てる活動

● 「森のあるまちづくり」をすすめる会（2010年発足）

地元企業の皆さまと植樹活動



ガバナンス Governance



コーポレート・ガバナンスの強化

● 独立社外取締役

取締役の1/3以上が独立社外取締役

● 監査等委員会設置会社（2015年移行）

監査・監督機能の強化、取締役会の活性化

マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策

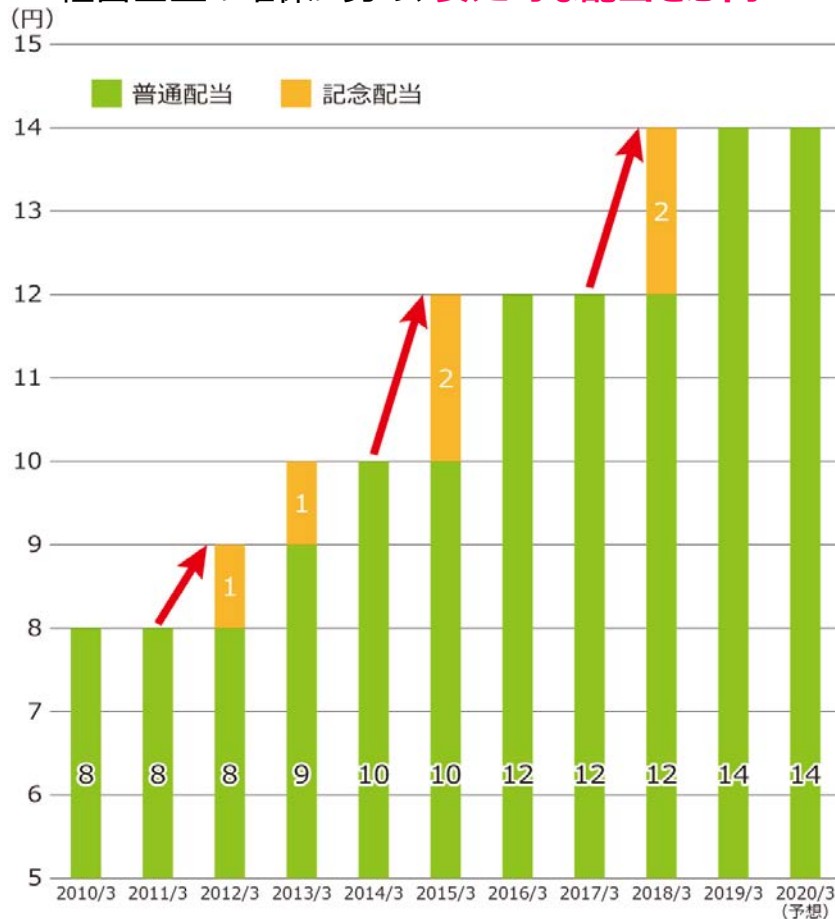
● 徹底的な調査・検証、厳正なリスク管理

他行に先駆けた最新システム導入のもと、管理態勢の整備・高度化

● 当行では、株主さまへの利益還元を積極的に実施しております。

配当

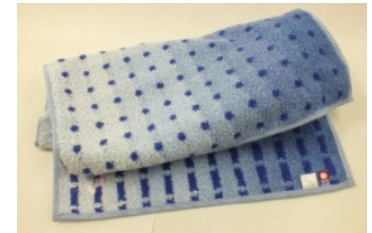
● 内部留保による財務体質の強化を図ることで、経営基盤の確保に努め、**安定的な配当を志向**



株主さまご優待制度

100株以上1,000株未満保有の株主さま

- ご優待品を贈呈 (今治タオルを贈呈)



1,000株以上保有の株主さま

3つのうち、いずれか1つをお選びいただけます

- 愛媛県産品・TSUBASAアライアンス共同企画特産品
- 株主さまご優待定期預金
- 日本赤十字社への寄付



おかげさまで

140周年



本資料における、将来の業績につきましては、発表時において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。

将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。



伊予銀行



参考資料

伊予銀行のプロフィール



伊予銀行

本店所在地	愛媛県松山市
創業	1878年（明治11年）3月15日（第二十九国立銀行）
資本金	209億円（発行済株式総数323,775千株）
従業員数	役員12人、職員2,798人（臨時を除く）
拠点数	国内149か店（出張所7を含む）、海外1か店（シンガポール）
	海外駐在員事務所2か所（上海、香港）
外部格付	AA：日本格付研究所（JCR）
	A：スタンダード&プアーズ（S&P）
	A+：格付投資情報センター（R&I）

連結総自己資本比率（国際統一基準）	14.38%
連結子会社数	15社
連結従業員数（臨時を除く）	3,147人

<2019年3月31日現在>

店舗ネットワーク

- 瀬戸内圏域を中心に、**13都府県**に店舗を配置しております。
- 瀬戸内に根ざした **地方銀行第1位の広域店舗ネットワーク** を構築しております。

主な県外店舗の出店時期

1909 臼杵（大分県）、1919 仁方（現：呉 広島県）
1947 高松（香川県）・高知・大分、1950 広島
1952 大阪、1954 東京、1958 徳島
1963 北九州（福岡県）、1964 岡山
1965 名古屋（愛知県）、1966 神戸（兵庫県）
1971 福岡、1979 徳山（山口県）

店舗数
国内**149**か店
海外**1**か店

中国地区 9か店

岡山県

兵庫県

近畿地区 5か店

広島県

香川県

大阪府

山口県

徳島県

福岡県

愛媛県内
117か店

愛媛県以外の
四国地区 7か店

東海地区 1か店
東京地区 2か店

九州地区 8か店

海外 1か店
駐在員事務所2か所

大分県

高知県

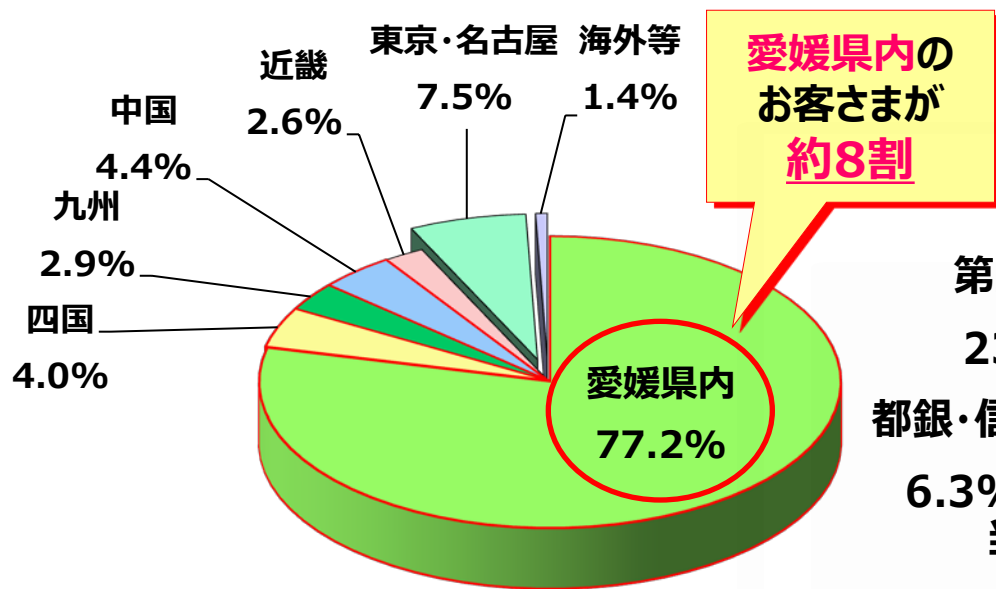
（2019年3月31日現在）

瀬戸内海周辺では**11府県**

（注）愛媛県内店舗数にインターネット支店を含めております。

● 「預金等」残高は、5兆7,126億円（前年度比+1,666億円）となりました。

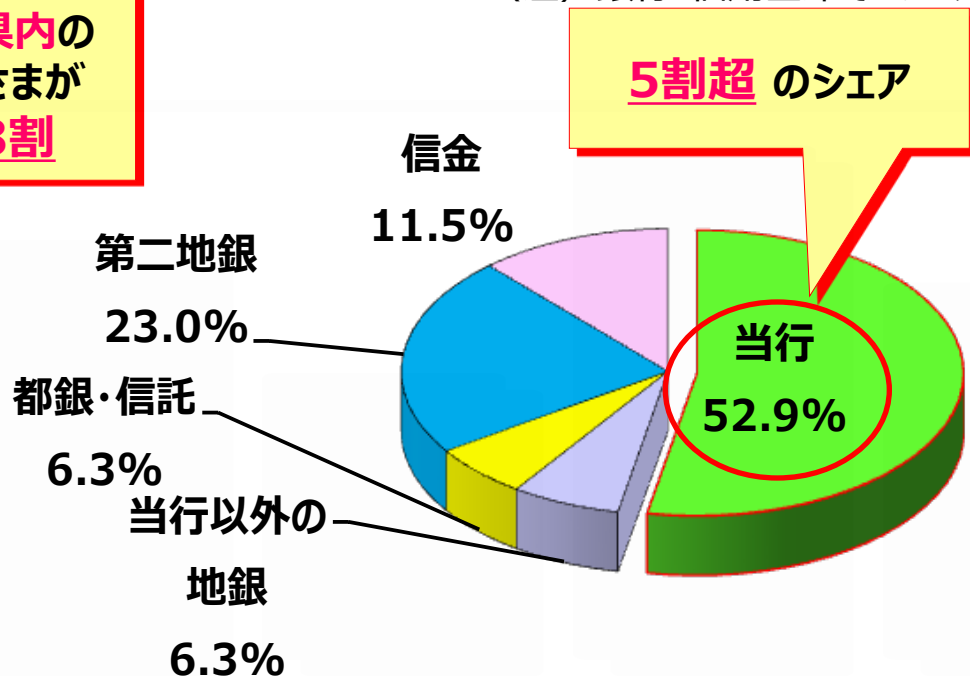
<当行預金等残高 地区別構成比（2019/3末）>



東京・名古屋、海外を除く
瀬戸内圏域では約9割

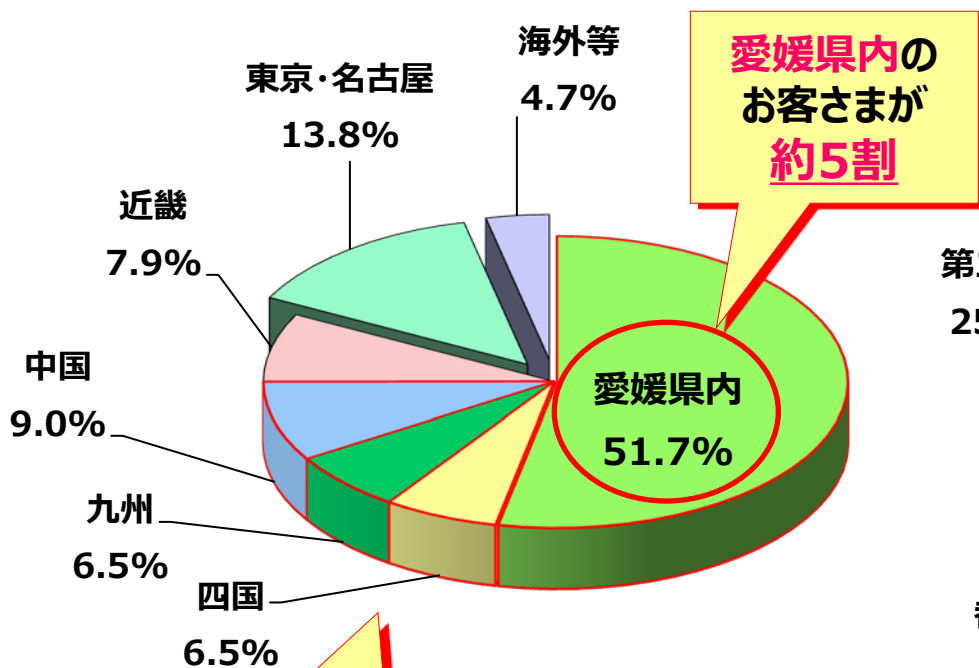
<愛媛県内預金等残高 当行シェア（2019/3末）>

（注）銀行・信用金庫でのシェア



● 「貸出金」残高は、**4兆5,508億円（前年度比+2,582億円）** となりました。

<当行貸出金残高 地区別構成比（2019/3末）>

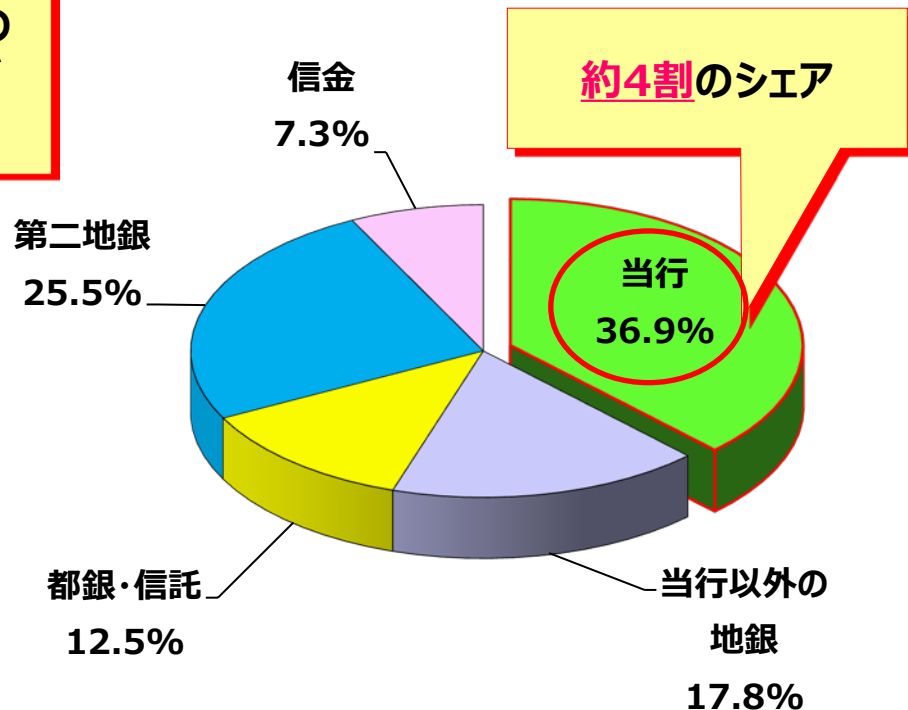


愛媛県内のお客さまが
約5割

東京・名古屋、海外を除く
瀬戸内圏域では **約8割**

<愛媛県内貸出金残高 当行シェア（2019/3末）>

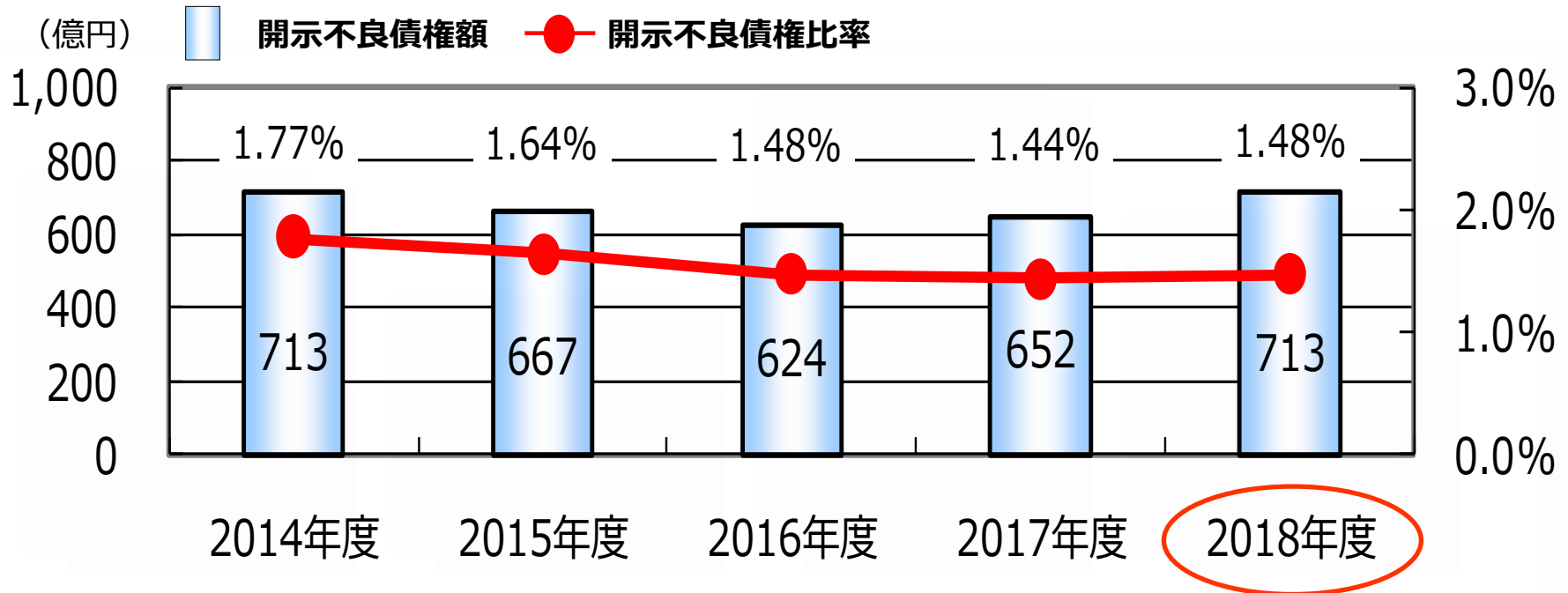
（注）銀行・信用金庫でのシェア



約4割のシェア

- 健全性の目安となる「開示不良債権比率」は、**1.48%**と低い水準を維持しております。
- 引き続き経営改善へのご支援に努め、不良債権の削減を目指してまいります。

<開示不良債権額・比率推移>



「開示不良債権」とは？

金融再生法により、一定の基準に基づき、金額の公表が義務付けられている債権です。

当行株価の状況について

- 当行株価は、長期的に東証一部銀行業を上回るパフォーマンスを確保しております。
- 「D-H-D Bank」を当行の目指すべき姿として取り組み、収益力の維持・向上を図ります。

各種株価指標

株価	544円
配当利回り（実績）	2.57%
1株配当（実績）	14.0円
PER（実績）	9.29倍（連結）
PBR（実績）	0.27倍（連結）
1株あたり利益（2019/3末）	58.54円
1株あたり純資産（2019/3末）	1,975.54円
時価総額（発行済み株式総数ベース）	1,761億円

（2019年6月28日現在）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年6月28日 までの実績
年初来高値	1,329円	1,630円	1,163円	984円	988円	627円
年初来安値	874円	1,108円	570円	726円	542円	540円
配当実績 （年度）	12.0円	12.0円	12.0円	14.0円	14.0円	14.0円 （年間予想）

当行株価のパフォーマンス

